

病害と藻類からグリーンを守る

芝生用
殺菌剤

ダコグリーン

顆粒水和剤

ダコグリーンは株式会社エス・ディー・エス バイオテックの登録商標です。



求めたのは病害と藻類の同時防除

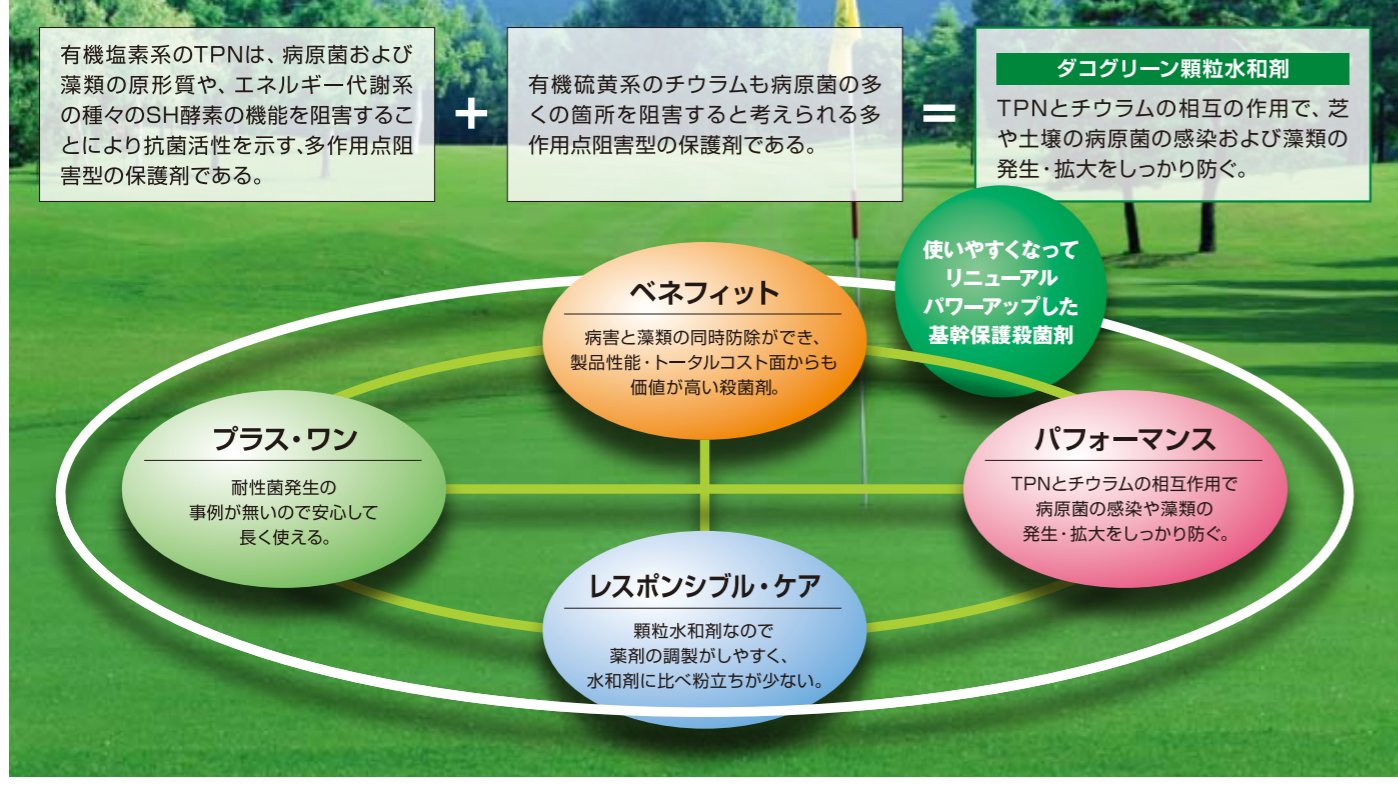
ダコグリーン顆粒水和剤は、日本・北米をはじめ世界各国で使われているTPN（クロロタロニル）が50%と、様々な用途で使われているチウラムが30%配合された、予防効果に優れたグリーン用殺菌剤です。



1 ダコグリーン顆粒水和剤の特長

- 病害と藻類の同時防除ができ、防除コスト面からも価値が高いグリーン用殺菌剤。
- TPNとチウラムの相互の作用で病原菌の感染や藻類の発生・拡大をしっかりと防ぐ。
- 耐性菌の出現を心配せず、基幹予防剤として安心して長く使える。
- 顆粒水和剤なので計量しやすく、水和剤に比べ粉立ちが少ない。

2 ダコグリーン顆粒水和剤の作用特性とその価値



3 ダコグリーン顆粒水和剤の成分・性状・毒性・環境影響情報

TPNの構造式

チウラムの構造式

- 種類名：チウラム・TPN（クロロタロニル）水和剤
- 有効成分名：ビス（ジメチルチオカルバモバイル）ジスルフィド 30.0%
テトラクロロイソフタロニトリル 50.0%
- その他成分：鋳物質微粉、界面活性剤等 20.0%
- 物理化学的性状：類白色水和性細粒
- 人畜毒性：チウラム普通物*（原体）、TPN 普通物*（原体）
※毒劇物に該当しないものを指している通称
- 急性毒性（製剤）：経口 LD50：>300mg/kg、<2,000mg/kg（雄ラット）
経皮 LD50：>2,000mg/kg（雄雌ラット）
- 環境影響情報（製剤）：魚毒性/コ イ：LC50（96h） 150μg/L
その他/ミジンコ：EC50（48hr） 44μg/L
藻類：ErC50（0-72hr） 230μg/L

4 ダコグリーン顆粒水和剤の使い方

- 発病前もしくは発病初期から計画的に散布する事により、病原菌の感染を防ぎ、併せて藻類の発生・拡大を抑える。
- 梅雨前から計画的に複数回散布することにより、複合感染の軽減効果が期待でき、グリーンの夏越し対策に余裕が持てる。
- ダコグリーン顆粒水和剤と浸透性殺菌剤との混用、あるいは、系統の異なる殺菌剤とのローテーション散布は複合感染の軽減効果が期待でき、また耐性菌対策としても有効である。

ダコグリーン顆粒水和剤の注意事項

⚠️ ラベルに記された使用量を守る。

- 強アルカリ性の薬剤との混用は避ける。〈薬害・効果減〉
- ベントグリーンの更新作業（例えばエアレーション）前後2週間の散布は控えることが望ましい。
- 特に夏季の更新作業時は散布を避ける。〈薬害リスク〉

ダコグリーン顆粒水和剤を主体に早期の防除に心がけ、状況に応じて浸透性殺菌剤との併用をおすすめします。

ダコグリーン顆粒水和剤の試験事例の紹介

■ 病害（委託試験）

2010年 日植防/病害委託試験結果

炭疽病に対する効果

ダラススポット病に対する効果

西日本グリーン研究所 発生状況：多発生
散布：2010. 7/26, 8/6・20
処理量：2g/m²
散布水量：500ml/m² 区制：1m²/区 3連制
調査日：2010. 8/26（3回目処理6日後）

関西グリーン研究所 発生状況：小〜中発生
散布：2010. 4/21, 5/14・28, 6/12, 7/1
処理量：2g/m²
散布水量：500ml/m² 区制：1m²/区 3連制
調査日：2010. 7/15（5回目処理14日後）

■ 藻類（委託試験）

2009～2010年 日植調/藻類委託試験判定結果集計

対象物	必要回数	散布量 g/m ²	試験機関	2009年			2010年		
				総合評価	判定	試験地	総合評価	判定	試験地
藻類 ベントグロス	6	2g 500ml	東日本グリーン研究所	AO	○	山梨県	AO	○	神奈川県
			関西グリーン研究所	AO	○	兵庫県			
			新中国グリーン研究所	AO	○	広島県	AO	○	広島県
			太平洋クラブアソシエイツ美野里				AO	○	茨城県

※総合評価 AO とは除草効果極大、薬害無を示す。

■ 藻類（自社試験）

関東Aゴルフ場：ベントグリーン/ベントクロス
処理日：8/5, 19, 27 処理量：2g/m²
調査日：10/14 最終散布48日後撮影
結果：処理区には藻類の発生がなかった。

【処理区】

【無処理区】

関東Bゴルフ場：コウライグリーン
処理日：8/14, 20, 9/12 処理量：2g/m²
調査日：9/19 最終散布7日後撮影
結果：処理区には藻類の発生がなかった。

【処理区】

【無処理区】

●使用前にはラベルをよくお読みください。 ●ラベルの記載以外には使用しないでください。 ●本剤は小児の手の届く所には置かないでください。

芝生用殺菌剤

タコグリーン

顆粒水和剤

適用病害と使用方法

作物名	適用病害名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	チウラムを含む農薬の総使用回数	TPNを含む農薬の総使用回数
日本芝 (こうらいしば)	カーブラリア葉枯病	250 倍	0.5l/m ²	発病初期	8 回以内	散布	8 回以内	8 回以内
西洋芝 (ベントグラス)	ダラスポット病 炭疽病 葉腐病 (ブラウンパッチ)							

適用雑草と使用方法

作物名	適用雑草名	使用時期	使用量		本剤の使用回数	使用方法	チウラムを含む農薬の総使用回数	TPNを含む農薬の総使用回数
			薬量	希釈水量				
西洋芝 (ベントグラス)	藻類	芝生育期 (藻類発生前)	2g/m ²	0.5l/m ²	8 回以内	散布	8 回以内	8 回以内

⚠ 効果・薬害等の注意

- 強アルカリ性の薬剤との混用はさける。
- 夏期高温時の散布は、葉が褐色または黄化することがあるので注意する。
- 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないようにし、特に初めて使用する場合は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

⚠ 安全使用上の注意

- 誤飲、誤食などのないように注意する。誤って飲み込んだ場合は吐き出させ、直ちに医師の手当を受けさせる。本剤使用中に身体に異常を感じた場合には直ちに医師の手当を受ける。

- 粉末は眼に対して強い刺激性があるので、散布液調製時には保護眼鏡を着用して薬剤が眼に入らないよう注意する。眼に入った場合には直ちに十分に水洗し、眼科医の手当を受ける。
- 本剤は皮膚に対して刺激性があるので、皮膚に付着しないよう注意する。付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落とす。
- 散布の際は農薬用マスク、手袋、不浸透性防除衣などを着用するとともに保護クリームを使用する。作業後は直ちに身体を洗い流し、うがいをするともに衣服を交換する。
- 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯する。
- かぶれやすい体質の人は作業に従事しないようにし、施用した作物等との接触をさける。
- 夏期高温時の使用をさける。
- 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにする。
- 公園等で使用する場合は、散布中及び散布後(少なくとも散布当日)に小児や散布に関係のない者が散布区域に立ち入らないよう縄囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜等に被害を及ぼさないよう注意を払う。
- 魚毒性…水産動植物(魚類)に強い影響を及ぼすおそれがあるので、河川、湖沼及び海域等に飛散、流入しないよう注意して使用する。養殖池周辺での使用はさける。水産動植物(甲殻類、藻類)に影響を及ぼすおそれがあるので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用する。
- 散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さない。
- 使用残りの薬剤が生じないよう調製を行い、使い切る。空袋は圃場などに放置せず、水産動植物に影響を与えないよう適切に処理する。
- 保管…直射日光をさけ、食品と区別して、冷涼・乾燥した場所に密封して保管する。
- 火災時は、適切な保護具を着用し、水・消火剤等で消火に努める。
- 漏出時は、保護具を着用し、掃き取り回収する。
- 移送取扱いは、ていねいに行う。

農林水産省登録 第23061号 (クミアイ化学) 第23062号 (住化グリーン) 第23060号 (SDS)

●本資料は2012年12月現在の知見を基に作成しています。

販売:  株式会社 理研グリーン 販売:  住化グリーン株式会社

タコグリーン普及会 (事務局)  株式会社 イステック

取り扱い:

